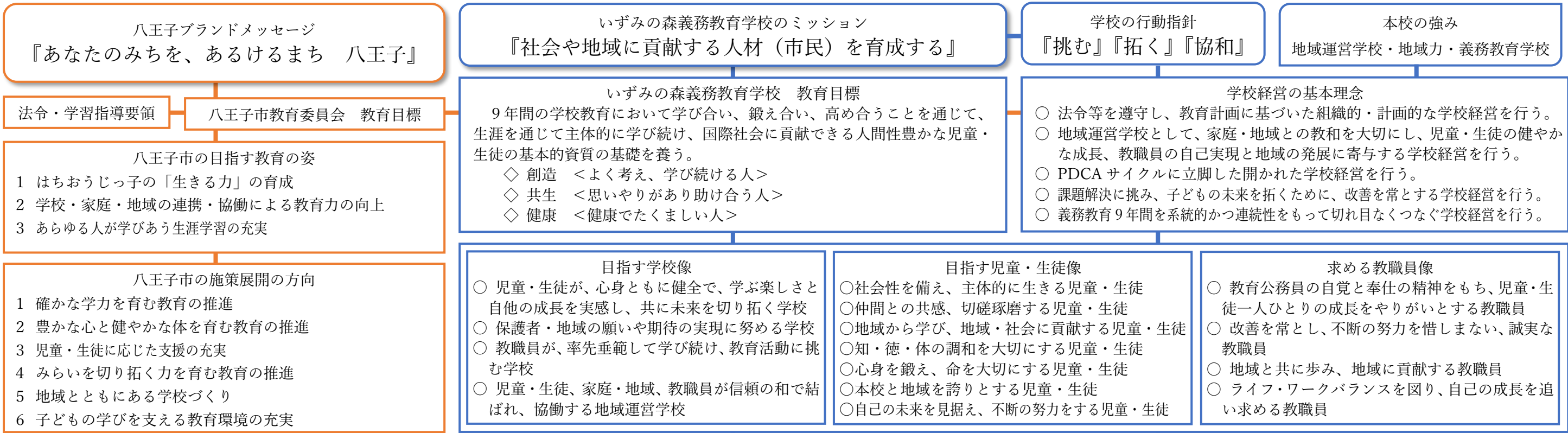




中期的目標と方策（令和 8 年度～10 年度）	義務教育 9 年間を通した一体的な教育活動の推進	小中一体	今年度目標と重点取組（令和 8 年度）
1 豊かな人間性と社会性の育成 （現状）自己有用感 72%、異年齢活動への参加態度 91%、地域・社会への貢献意識 57%、多様性の尊重意識 90% （指標）①自己有用感 90%、②異年齢活動への参加態度 90%、③地域・社会への貢献意識 90%、④多様性の尊重意識 90% （目標 1）自治的活動を通した児童・生徒の主体性の育成 ① 自己の役割と責任を重視した学級・学校運営の推進 ② 共感と協働を基盤とした学級・学校運営の推進 ③ 児童・生徒主体の委員会・学校行事運営の推進 （目標 2）地域理解と地域活動への参加を通した児童・生徒の社会性の育成 ① 地域をフィールドとした学習活動の推進 ② 地域行事や地域活動等への参加の促進 ③ 日々の諸活動が社会や個々の生き方につながる教育活動の推進 2 学力の向上 （現状）学力調査（思考・判断・表現）正答率 国 4 年：63.7 5 年：63.4 6 年：70.1 7 年：67.6 8 年：72.7 9 年：65.7 算・数）4 年：48.7 5 年：52.9 6 年：50.9 7 年：38.6 8 年：58.6 9 年：54.3 学力調査(基礎)正答率が目標値以上の割合 国 4 年：87.3% 5 年：89.2% 6 年：92.6% 7 年：85.9% 8 年：89.4% 9 年：72.6% 算・数）4 年：88.8% 5 年：74.3% 6 年：88.6% 7 年：89.0% 8 年：84.9% 9 年：73.8% （指標）①学力調査（思考・判断・表現）正答率 国 80 数 80 ②学力調査（基礎）正答率が目標値以上の割合 90% ③話し合い・ペアワークの取組態度 90% ④話し合い・発表等の実施頻度（授業時数の 3 割）100% （目標 1）学ぶ楽しさの実感と学びの活用による確かな学力の定着 ① 話し合い活動やグループ活動を重視した学習指導の充実 ② 各教科等で学んだことを活かした探究活動の計画的な実施 ③ 語彙力と説得力（根拠をもって意見を示す）を高めるとともに学習端末を活用したプレゼンテーション力を高める授業の充実 ④ 学んだことを Output（発表・発信）する学習活動の推進 （目標 2）学びをつなげ、社会や生活に活かせる学力の定着 ① 教科間や領域の内容をつなげた授業・活動の実施（横断型学び） ② 異学年をつなげた（で学ぶ）授業・活動の実施（垂直型学び） ③ 学校生活や社会生活とつなげた授業・活動の実施（拡張型学び） ④ 学習機会の多様化を進め学びのつまずきを支援（個別型学び） 3 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実 （現状）学校満足度：生徒 85% 保護者 84%、相談機会への満足度：生徒 79% 保護者 81%、SDG s への取組：生徒 87% 保護者 90% （指標）①学校満足度：生徒 95% 保護者 90%、②相談機会への満足度：生徒 95% 保護者 90%、③SDG s への取組：生徒 95% 保護者 90% （目標 1）個々の特性や課題に即した相談体制と支援体制の実現 ① 一人ひとりの特性や状況の把握の徹底と相談機会の多様化 ② 地域や諸機関とのネットワークを活かした居場所づくりと支援の充実 ③ 学校に思うように登校できない生徒・家庭への支援の充実 （目標 2）一人ひとりの児童・生徒が未来像をもてるキャリア教育の推進 ① 児童・生徒のキャリア形成を重視した校外学習や職場体験・福祉体験の実施 ② 日々の学びが社会や個々の生活につながる学習の実施 ③ 社会とのつながりが実感し、持続可能な社会の形成者としての資質・能力の基礎を育む学習の実施	1 豊かな人間性と社会性の育成 （指標）①80% ②80% ③85% ④85% （重点 1）日々の学校生活での自治的活動で育てる 1) 児童・生徒の意見を反映した委員会・学校行事・学級経営の推進 2) 自己の役割を自覚し主体的に活動し責任を果たす委員会・学級活動の推進 （重点 2）地域から学び、地域の活動への参加で育てる 1) 地域行事・地域活動への参加や運営ボランティア経験の促進 2) 学級・学校運営や地域行事への参画による自己の生き方につながる学びの促進 2 学力の向上 （指標）①学力調査正答率 国 80 数 70 ②学力調査目標値以上 85% ③話し合い態度 80% ④話し合い実施 80% （重点 1）思考力・判断力・表現力等を高める授業を行う 1) 話し合い・グループ活動など、児童・生徒主体の Output 型の学習の推進 2) 語彙力と説得力を高め、質の高い発表活動（プレゼンテーション）の実施 （重点 2）社会や生活につながる学びを創造する ① 教科間で内容や活動、教員がコラボした授業の実施 ② 異学年での学習や活動、生徒や教員がコラボした授業の実施 3 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実 （指標）①②児童・生徒 90%、保護者 80% ③S 生徒 90%、保護者 85% （重点 1）相談機会の多様化を進める 1) 学習、いじめや不登校等、児童・生徒の課題に即した相談機会づくり 2) 個々の特性や課題に即した児童・生徒支援の組織的な推進 （重点 2）体験的な活動を児童・生徒のキャリア形成につなげる 1) 体験活動のねらいにキャリア形成を位置付け系統的に実施 2) 社会とつながる学び及び生活に活かせる学びと体験活動の推進 各期の習得目標の着実な定着と義務教育 9 年間で切れ目なくつなぐ教育活動の充実		